

4 学級の準備

(1) 在籍学級担任の心構え

外国人児童生徒等の受入れが決まったら、担任は「言葉が通じなくて大丈夫だろうか」「学級になじめるだろうか」など不安や心配に思うのではないのでしょうか。しかし、外国人児童生徒等の受入れは、学級の児童生徒にとっても多様な価値観や文化を知り、成長できる大きなチャンスであり、学級にとってもプラスの出来事だということを理解しておきましょう。

また、異文化の中で育っていく外国人児童生徒等は、言葉の問題や異文化間での価値観、習慣の違いなどについて一人一人が課題を抱えているため、きめ細かなケアが必要です（本書P59～64）。

POINT

一人で抱え込まないで

外国人児童生徒等への指導が始まると、言葉や文化の違いなどから、担任は様々な悩みや苦勞があることでしょう。

でも一人で抱え込まず、いろいろな人に相談しましょう。

学校においても組織でサポートする体制づくりが重要です。

日本語指導担当教員（外国人児童生徒等教育担当）がコーディネーターとなり、担任を支えましょう。



コラム

伝えたいという気持ち

コミュニケーションの基本は、相手に伝えたいという気持ちではないでしょうか。

ジェスチャー、イラスト、写真、具体物と、言葉が通じなくてもコミュニケーションする方法はたくさんあります。担任が奮闘している姿を見て、学級の児童生徒は「自分も先生のようにすれば伝わるんだな」と学んでいます。もし、「これはどうせ言っても通じないから、言わなくていい」という態度を担任がとったらどうでしょう。学級の児童生徒に、「外国人児童生徒等とはあまり関わらなくてもいい」というメッセージを発していることになりませんか。

外国人児童生徒等からも、何かを伝えようとする時があります。そんな時もすぐ通訳を頼むのではなく、表情やジェスチャーから、何を言いたいのか読み取りましょう。生活の様子をいつも観察していると、おおよそのことが分かってくると思います。

相手の言っていることが分かった、自分の言いたいことが伝わったということは、誰にとってもうれしいものです。「〇〇さんの言いたいことが分かった！」という時は、お互いに自然に笑顔があふれます。そのことが、生きた言葉の習得にもつながっていくのです。

(2) 在籍学級担任の準備

□ 在籍学級の児童生徒への事前指導

- ・外国人児童生徒等の名前や出身国を知らせ、文化の違いや日本語が理解できないことにより、分からないことやうまく行動ができないことがあることを伝えます。
- ・外国人児童生徒等の母語の挨拶を学級の児童生徒と練習しておきましょう。挨拶の言葉や簡単な会話表現を書いた掲示をしておくのもよいでしょう。

< 掲示物の例 (タガログ語) >



□ コミュニケーションのための資料・機器等

- ・学校生活を説明するイラストや写真
- ・外国人児童生徒等の国の旅行ガイドブックや対話集
- ・一人一台端末、AI音声翻訳機や翻訳アプリ

□ 学校生活に関する資料

- ・ロッカー、机の引き出し、靴箱、トイレなどの使い方を具体的に指導する視覚資料
(「ひと目でわかる! 教室で使うみんなのことば」本書P75)
- ※ 新入生用資料等を利用することもできます。

□ 外国人児童生徒等への配慮

- ・座席
 - ※ 編入当初は外国人児童生徒等は担任の近くとし、見守りや声掛けができるようにします。隣の席は積極的に関わりをもとうとする児童生徒を配置するのもよいですが、その児童生徒に過度の負担にならないよう配慮します。
- ・机や黒板に貼るための外国人児童生徒等の名前を書いたカード
 - ※ 自分の名前をすぐには書けないので、カードを見て書けるようにします。カタカナで表記する場合がありますが、学齢等を考慮してひらがなにしてもよいでしょう。

(3) 「取り出し」指導のための教室環境づくり

学校によっては外国人児童生徒等の急な受入れにより、日本語指導を行う教室をすぐに用意できないこともあります。しかし、児童生徒が落ち着いて、安心して学べる教室環境を整えることは重要です。児童生徒が、興味・関心をもち楽しく学習できる環境を日本語指導担当教員(外国人児童生徒等教育担当)が中心となって整えましょう。

< 例 > 教室に準備するもの

- ・ 50音表 (ひらがな・カタカナ) ・ 時間割 ・ カレンダー
- ・ 黒板やホワイトボード ・ 作品等の掲示物を貼れるスペース



黒板の上に
児童生徒の母国の国旗を掲示



学習ごとの教材・
学習プリントの入った引き出し



日本語教室で
2か所に分かれて指導する様子